

第 10 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー
「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」開催報告

2023 年 11 月 7 日に日本放射線影響学会第 66 回大会において第 10 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーが現地と Zoom 配信とのハイブリッドで開催された。今回は「影響学会における男女共同参画の『あゆみ』と『これから』」と題して、特別講演とパネル討論を通して、男女共同参画に関し、社会や学会において、この 10 年で変わったこと、変わらないことを整理し、今後、どのような活動が求められるのか考えるきっかけとすることを目指した。

第一部として為近恵美先生（横浜国立大学地域連携推進機構成長戦略教育研究センター）より「私が経験した男女共同参画の 10 年×2」についてご講演いただいた。為近先生ご自身のライフイベントを中心に、ご所属の応用物理学会の男女共同参画に関する変遷についてもご講演いただいた。ご自身は企業研究者として長く活躍されたこともあり、2001 年の応用物理学会での男女共同参画の立ち上げの時には、「差別はないが障害はある」、という状態で、何が課題なのか正直わからなかったとのことだった。活動を続けていく中で、アンコンシャスバイアスを意識するようになったこと、委員会の構成メンバーが変わると、活動の継続性が一部失われ、結果として 20 年経った現在でもそれほど課題は変わってないのではないかというのが為近先生のご意見であった。「女性」としてカテゴライズされることに反発はあるものの、女性でなければ考えつかなかったこともあり、女性の割合が増え、集まることの重要性にも気が付いたとおっしゃっていた。為近先生ご自身は、時代とともに自分目線から次世代の男女共同参画に考え方が変わり、女性の数が増えることが大事で、そのためには女性が理系職に就けるように、理系学部的女子学生を増やしていくこと、さらに学校教育の変革が重要であるとおっしゃっていた。学会は男女共同参画を超えて障がい者や外国人を含めたダイバーシティにシフトしていく傾向にあるが、男女共同参画がそれに埋もれてしまわないようにすることが大事なこと、また自己肯定感や「あなたの選択は無条件で正しい」という言葉に代表されるように、これまでの当たり前に打ち勝ち、自分たちの意識が一段上にあがる気持ちが大事、という言葉が印象的であった。

次に、パネル討論に移る前に、事前アンケート結果の報告を行った。研究活動に関する男女間の格差や結婚、妊娠、出産、育児を中心とした男女共同参画社会実現のために配慮が必要と考えられる事項について、幅広い年代の方にそれぞれが経験された当時の状況を伺うことで、これらの課題、個々人の意識が時間と共にどのように変化してきたのか、その実態に迫ることを目的として実施した。様々な意見がある中で、10 年前に比べ、総じて上司の男女共同参画への理解は進んでいるが、子育ての不安は増大し、所属機関や勤務形態には不満が大きくなっている傾向にあった。

第二部はパネル討論を行った。パネリストとして、大塚健介氏、富田雅典氏（以上、電力中央研究所）、細谷紀子氏（東京大学）、柿沼志津子氏、李恵子氏（以上、量子科学技術研究

開発機構)にご登壇いただき、さらに飯塚大輔委員長もパネル討論に参加した。まず、歴代の委員長から日本放射線影響学会での男女共同参画に関するあゆみの紹介があった。約10年前に日本放射線影響学会にもキャリアパスや男女共同参画に関する委員会があるべきだという機運が高まりワーキンググループが設置され、次に男女共同参画学協会連絡会に加入し、他学会の情報を参考に日本放射線影響学会でもできることとして、企画セミナーを大会初日のお昼時間帯に行うとともに、託児所設置が進んだ。委員会のメンバーに関しては、男女や年代、地域差のバランスを考慮した委員会構成が行われている。2020年からのコロナ禍には、企画セミナーをZoomで開催し、グループディスカッション形式を導入した。託児所に関しても、小さな学会では難しいので、託児費用援助制度を設け、費用の一部を援助する枠組みを作った。さらにはキャリアパス・男女共同参画アンケートやホームページでニーズのくみ上げと情報発信を行っている。

個人個人で状況が違う中で、制度がたくさんできても、画一的な施策では難しい。個々の意見を拾っていくことが大事である。前例がないことを壁とせず、社会や職場の変化への柔軟性が求められるという若手世代からのメッセージが印象的だった。

本企画セミナーでは次の10年を見据えて、現状を整理し、研究機関のあるべき姿や、本学会のキャリアパス・男女共同参画の方向性を考えていくことを目的とした。会場109名、Zoom11名の計120名もの会員にご参加いただいた。しかしながら、個々の会員の多様なご意見をすべて集めること、取り上げることはできなかったのも、あくまでも一つの方向性だと考えており、今後も様々な場面でご意見をうかがっていきたい。

企画・運営：日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画委員会

委員長	飯塚 大輔	(量子科学技術研究開発機構)
副委員長	石川 純也	(杏林大学)
委員	朝田 良子	(大阪公立大学)
	池田 裕子	(近畿大学)
	恵谷 玲央	(大分県立看護科学大学)
	坂田 律	(放射線影響研究所)
	砂田 成章	(順天堂大学)
	保田 隆子	(日本女子大学)
	吉田 由香里	(群馬大学)

後援：男女共同参画学協会連絡会、日本放射線影響学会若手部会・SITプログラム小委員会